

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改憲阻止各界連絡会議 (憲法会議)

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2022年5月9日(月)
NO. 1269号
本号3頁

共謀罪、秘密保護法など、監視社会に向かう動きに反対の声を上げる！

「秘密保護法」廃止へ！実行委員会と共謀罪NO！実行委員会が6日昼、共謀罪と秘密保護法の廃止を求める「忘れない6日行動」を、衆院第2議員会館前で行いました。

共謀罪NO！実行委員会の角田富夫さんは、監視社会を目指す動きが急速に進んでいることを警戒しなければならないと指摘。「市民のプライバシー、基本的人権を守るために、秘密保護法廃止、共謀罪廃止、監視社会反対の運動を今後とも進めたい」と語りました。

憲法会議の高橋信一事務局長は、昨年の総選挙で改憲派が議席の3分の2を占め、憲法は戦後最大の危機を迎えていると強調。衆参の憲法審査会が毎週のように開催され、オンライン国会、緊急事態条項、国民投票法改正について4回ずつ審議し、熟議せずに実績作りを重ねていると指摘。そして、「国民の目と耳と口をふさぐ秘密保護法を何としてでも廃止させたい。すべては、憲法改定に向かっていくものだと心配している」と話しました。



日本出版労働組合連合会の住田治人副中央執行委員長は、現在ロシアでは当局がフェイクニュースと見なした場合に禁錮刑を科す法律がつけられ、戦争に反対する声が封殺されていることを取り上げました。「自由な言論、発言が平和と民主主義の根幹となる。みなさんと共闘していきたい」と語りました。

日本共産党の山添拓参院議員も駆けつけました。山添氏は「ウクライナ情勢を取り上げ、“憲法9条で平和を守れるのか」と危機感をあおる言動が出ている。しかし多くの人たちは戦争にならないために、どういう対応をするべきかを求めている。9条を生かした平和外交を進めていくことが最も必要だ」と語りました。

「滋賀首長九条の会」発足 武村・嘉田元知事ら会員19人

大津市で3日、思想・信条・支持政党などの違いを超えて憲法9条を守ろうと、「滋賀首長九条の会」が、元知事の武村正義氏や嘉田由紀子氏ら会員19人で発足しました。同市で開かれた「第16回滋賀・憲法のつどい」の第1部として発足式が行われました。

呼びかけ人である武村氏が「いまでも、この憲法はさんぜんと輝いていると思う。9条が堂々と存在し続けているからだ」とあいさつ。「戦争放棄と国際紛争の平和的解決を定めた『憲法九条を守れ！』の一点で結集し、九条を守り、いかす壮大な運動を展開しよう」と呼びかける県民へのアピールを採択しました。

武村、嘉田の両氏のほか、平尾道雄米原市長、中嶋武嗣元甲賀市長、橋本健元びわ町長、村西俊雄元愛荘町長・元米原町長が共同代表となり、藤澤直広元日野町長が事務局長に就任しました。

「滋賀・九条の会」の近藤学事務局長が「強力な憲法擁護の援軍が登場した」と祝辞を述べました。

宇野一雄元愛荘町長、松山正己元土山町長、山岡寿麿元志賀町長、山崎義勝元甲良町長、山中壽勇元蒲生町長も出席しました。

杉尾秀哉氏を長野選挙区の統一候補に 全国初 3野党と市民連合が政策協定

長野県の日本共産党、立憲民主党、社会民主党は5月4日、参院選の長野選挙区（改選数1）で立民現職の杉尾秀哉参院議員（64）を市民と野党の統一予定候補として一本化し、勝利へ全力を挙げることに合意しました。

杉尾氏は現在1期の参院議員。1957年生まれ、東京大学卒。東京放送（TBS）でワシントン支局長など歴任されました。

3野党は4日、勝利に向け信州市民連合との政策協定書にそれぞれ署名。今回の参院1人区での統一候補の決定は、全国初です。

協定署名に先立ち、共産党の鮎沢聡県委員長、立民の下条みつ衆院議員、社民の中川博司県議ら各党代表は長野市で会談。岸田自公政権に厳しい審判を下すため候補を一本化し、3野党が対等平等・相互尊重の立場で協力し、協定の内容の実現に力を合わせることを口頭で確認しました。

野党と信州市民連合は7項目の政策に合意。安保法制の違憲部分撤回とともに「9条改憲を許さず、平和と協調の憲法の精神に則った専守防衛政策を維持」などを確認しました。

調印式に際し、鮎沢氏は「共闘の旗印が鮮明になった。統一候補の杉尾さんを勝利させ、改憲勢力の議席3分の2を必ず阻止する」と訴えました。又坂常人・信州市民連合共同代表は「勝利へ野党と互いに頑張る」と語りました。

立憲民主党と杉尾氏は同日、長野市で記者会見を開き、共闘の議席を守る決意を表明。杉尾氏は「国民の命と暮らしを守り、平和な社会を次の世代に引き継ぐために再選を目指す」と力を込めました。

同選挙区には、自民新人の松山三四六氏（51）らが立候補を予定しています。

憲法記念日の3日、全国各地で「5・3 憲法集会」等を開催

大阪 「5・3 輝け憲法！ 平和といのちと人権を！ おおさか総がかり集会」3500人

大阪市北区の扇町公園で3日、「5・3 輝け憲法！ 平和といのちと人権を！ おおさか総がかり集会」（主催＝おおさか総がかり行動実行委員会）が開かれ、会場には3500人が参加し、オンラインで同時配信されました。集会後、梅田でスタンディング行動をしました。

ピースデポ代表の湯浅一郎さんがゲストスピーチ。ウクライナ侵略を機に、軍事力増強や憲法改悪の動きが強まる懸念を指摘し、憲法9条に依拠した軍事力によらない外交交渉の重要性を訴えました。

日本共産党、立憲民主党、社民党、れいわ新選組の各代表があいさつ。日本共産党の辰巳孝太郎前参院議員・大阪選挙区予定候補は「国際社会が一致団結してロシアの侵略をやめさせよう」と呼びかけました。

核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）国際運営委員を務める川崎哲さんがビデオメッセージ。マイク・サン・ライブが演奏し各分野の市民がリレートーク。参加者全員で「戦争やめろ」「いかそう憲法」のポテッカーを掲げてアピールしました。

京都 「5・3 憲法集会」 円山公園音楽堂に2500人参加

憲9条京都の会と「9条改憲NO！ 全国市民アクション・京都」が共催する「5・3 憲法集会」が3日、円山公園音楽堂で開かれ、2500人が参加しました。集会後、参加者らは「9条守ろう」などとコールし、繁華街をデモ行進しました。

ジャーナリストの金平茂紀氏が講演しました。金平氏は、ウクライナ現地に取材に入って感じた実感として「海外と戦争にならない関係をつくろうと言っている日本の憲法は世界の最先端。宝のような存在だ」と強調。「現地ですりついた結論は『殺すな』という言葉。ぜひみなさんも身近な人と憲法について話してみしてほしい」と呼びかけました。

日本共産党を代表して井上哲士参院議員があいさつ。「夏の参院選で改憲勢力に3分の2の議席を絶対与えない、憲法を守る一致点で共同を広げよう」と訴えました。社民、新社会、緑の各党代表があいさつし、立憲民主党がメッセージを寄せました。

愛知 「市民のつどい～激動する世界と日本の憲法」1300人 主催愛知憲法会議

憲法施行75周年の3日、名古屋市で愛知憲法会議が主催する「市民のつどい～激動する世界と日本の憲法」が開かれました。オンラインも含め、約1300人が参加しました。

今回は、YouTubeなどで社会問題を発信する「せやろがいおじさん」のトークライブと、ジャーナリストの青木理さんと水谷陽子弁護士（聞き手）の対談が行われました。蜂須賀太郎県弁護士会会長が連帯と激励のあいさつをしました。

せやろがいおじさんは、憲法改正について「政府はコロナ対応の失敗を棚上げし、『緊急事態条項』や改憲などの目的達成にコロナを利用している」と指摘し、「与党は国会でちぐはぐな答弁を繰り返している。憲法より先にこれをまず正すべき」と話しました。

青木氏は対談で「憲法を守るべき人たちが憲法を変えようとしている。現在は言論、表現、報道の自由が保障されているが危うい状況。なくなるときはあつという間だ。その中で抵抗し、声をあげるジャーナリストを応援してほしい」と語りました。

本秀紀愛知憲法会議事務局長（名古屋大学教授）は「日本政府は『防衛計画の大綱』の秘密化を狙うなど『戦争をする国』に突き進んでいる」と指摘し、「改憲が争点になっていることを7月の参院選までに国民に広げよう」と呼びかけました。

新潟 全国市民アクション@新潟は3日「5・3 憲法記念日行動」300人参加

9条改憲NO！全国市民アクション@新潟は3日、新潟市で「5・3 憲法記念日行動」を実施し、300人以上の参加者が横断幕やプラカードを掲げました。新潟県知事選（12日告示・29日投票）の片桐なおみ予定候補や参院選新潟選挙区予定候補の森ゆうこ参院議員（立憲民主党）ら7人がマイクを握りました。

県憲法センターの藤田孝一共同代表は、多くの日本とアジアの人々を犠牲にした戦争を二度と繰り返さないと決意した日本国憲法の精神を強調し、憲法を守る義務を負う首相や国会議員が改憲を主張するのは重大な憲法違反と批判。ウクライナ危機に乗じた敵基地攻撃能力や核共有議論を許さない国民世論を広げようと訴えました。

片桐氏は、武力行使を放棄した憲法9条こそが人間らしく生きる、人間の尊厳を守る条文だと指摘。ウクライナで原発が攻撃され、戦争の標的になる危険が明らかな時に、柏崎刈羽原発の再稼働をやめて、平和で原発のない新潟県を未来に残すことは私たちおとなの責任だと訴えました。

森氏は、世界の秩序の再構築に、平和憲法を持つ日本のリーダーシップが期待されていると指摘。いま、自由、平和、民主主義が大きな分かれ目にあり、一緒に守り抜こうと呼びかけました。

宮城 「5・3 憲法を活かす宮城県民集会」石川健治氏が記念講演 450人参加

「5・3 憲法を活かす宮城県民集会」が3日に仙台市で開かれ、立憲デモクラシーの会呼びかけ人の一人で東京大学教授の石川健治氏が記念講演しました。

主催は、みやぎ9条懇話会、宮城憲法会議、憲法をまもる市民委員会、宮城県護憲平和センターの4団体。450人が参加し、講演後に新緑の街なかを行進し、「ロシアの軍事侵攻 日本政府の軍拡政策に抗議する」と書かれた横断幕でアピールしました。

石川氏は講演で、国民の自由、「私的領域」を守る核として憲法13条（個人の尊重）を挙げ、「全体（国家）のための命として戦争に動員されたが、戦後は個人のものとして生命、自由、幸福を取り返した」と指摘。戦争放棄、戦力不保持、交戦権否認を掲げる9条が、徹底して軍国主義を切り離すとともに、国民の自由を守るものになっていると強調しました。

自民党が狙う自衛隊明記の9条改憲案について「9条のメカニズムを壊し、それに代わる仕組みを用意していない。自由のシステムを破壊するだけに終わる」と批判しました。

9条は「国民の希望」 憲法会議が「改憲阻止」声明 赤旗報道

しんぶん赤旗は4日、憲法会議が発した「施行75年の憲法記念日にあたっての声明」（前号に掲載）を、下記のように報じました。

憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）は施行75年の憲法記念日の3日、改憲阻止、ロシアのウクライナ侵略停止・即時撤退、参院選勝利で改憲にとどめをと呼びかける声明を発表しました。

日本国民310万人、アジアの2000万人の命を奪った侵略戦争への「戦争はいやだ」という国民の思いを集めた憲法9条は「国民の希望であり、世界の宝」だと強調。自民党「憲法改正実現本部」の全国遊説、憲法審査会の開催、ウクライナ侵略に乗じた「核共有」論、「敵基地攻撃能力」保有や軍事費2倍化の自民党提言など、岸田政権による憲法の平和原則に逸脱し日本を戦争へ突き進ませる動きを批判しています。

「軍事対軍事では平和は生まれない」と述べ、憲法9条を持つ日本こそが東アジア地域での平和をつくる努力の先頭に立つべきだと指摘。復帰50年で基地のない平和な沖縄の実現、「憲法改悪を許さない全国署名」の推進、参院選で市民と野党の共闘を広げ改憲派を少数派に追い込むために全力を上げることを表明しています。